

# リーディング

Comprehension

内容理解

Vocabulary

単語量  
(絵本)

Fluency

スラスラ読める  
(リーダーズ)

Phonics

アルファベットの音と法則  
(えいご遊び、教材)

Phonemic Awareness

Rhyme(韻)  
Syllables  
(歌、アニメ)

フォニックスの指導法は大きく分類して**2つ**あります。

1つ目は**アナリティック・フォニックス**、2つ目は**シンセティック・フォニックス**です。

- 1 **アナリティック・フォニックス**  
(analytic phonics)
- 2 **シンセティック・フォニックス**  
(synthetic phonics)

# アナリティックフォニックス

**「アナリティック・フォニックス」**は、1980年代後半から普及し始めたフォニックスの学習方法のひとつ。

**アメリカで主流**のフォニックスです。

アナリティックは**「分析的な、分解の」**という意味。

**「すでに知っている単語を分析・分解して綴りのルールを学ぼう」**というフォニックスなのです。

たとえば「a」の音を学ぶときは、「apple」「angry」「ants」などの知っている単語を並べ、

共通しているものはなにか？

そうか、「a」という文字は「ア」と読むのか！

といった感じで分析して、**音のパターンの認識**を深めていきます。

「アナリティクス・フォニックス」のメリットは、フォニックスのルールが定着すれば、**知らない単語や忘れた単語でも推測して読み進める力がつく**ことです。

「アナリティクス・フォニックス」は**単語ありき**のメソッドです。

**単語の中の音を分析**していくので、文字の音とともに「**ことばの意味**」も確認でき、語彙力を増やすこともできます。

## デメリット

一方で、**デメリット**もあります。

- 「z」までの音を入れるのに時間がかかる
- 組み合わせや例外を学ぶのに時間がかかる
- 前提として語彙力がある程度必要
- 暗記に頼るためについていけない子が出てくる

# シンセティックフォニックス

「**アナリティック・フォニックス**」は1990年代後半から普及し始めた新しいフォニックスで、近年イギリスなどで主流になっています。

シンセティックは「くっつける」という意味。

「シンセティック・フォニックス」では、**個々の文字の音を組み合わせて単語**にしていきま  
シンセティック・フォニックスには、次のような**特徴**があります。

- 音を聞いてから単語を理解する
- 「A, B, C…」順ではなく「S, A, T…」順に学習する
- 文字の「音」を先に学び、文字の「名前」は後から
- 暗記に頼らず自分の力で読めるようにする

1つ1つの音を学んだら、学んだ順に組み合わせて**単語**として読んでいきます。

たとえば/c/ はc、/a/ はa、/t/ はtというように英語の「音」と「つづり」の関係を指導し、それをすぐにくっつけて「**cat**」と読めるようにしていきます。

「シンセティック・フォニックス」の**メリット**は、音からスペルを推測できるようになるので、**単語の丸暗記から逃れられる**ことです。

「シンセティック・フォニックス」は**音ありき**のメソッドです。

1文字ずつ学んだ音を組み合わせて発音していくので、**ひらがなを読むような感覚**で単語を読めるようになります。

## デメリット

---

一方の**デメリット**は、「音からスペルを推測し発音できても、その単語の意味が分からない」ということが起こり得ることです。

たとえば**cat**と聞いて正しく書き読むことができても、「**cat**ってどういう意味？」となってしまう可能性があります。

しっかりと意味も理解していくためには、**並行サポート**が必要になってくるでしょう。